

失敗したっていいじゃない

智辯学園奈良カレッジ中学部 2年 東口 果央

私は現在、智辯学園奈良カレッジのブラスバンド部に所属してクラリネットを担当しています。最初は出なかった音もありましたが、先輩方から沢山のアドバイスを頂いて吹ける曲も増えてきました。そんな中、顧問の先生からコンクールにチャレンジしてみないかと提案がありました。チャレンジするか否かは、各学年ごとの部員達で話し合っ決めてよいと言われました。コンクールに出る場合は、楽曲が多くなる為、練習時間が増えます。私も初めは勉強と両立ができない不安もありましたが、好奇心が勝ってしまい私はコンクールに出てみたいと思いました。しかし話し合いの中では、「時間が足りないよ」「練習不足で無理だよ」などの失敗を前提とした意見があがりました。その時私は思いました。なぜ失敗する前提で話し合いをしているのかと。失敗する事は恰好悪い事なのでしょうか。失敗を怖れる心はどこからやってきたのでしょうか。

私が尊敬するトーマス・エジソンは、電球を作るときにフィラメントになるものを発見するまでに試行した回数は2万回です。1万回失敗した時点で、ほとんどの人がもう無理だ、と思いましたが、エジソンは「この方法では上手くいかないという情報を1万回得ただけ」と言いました。これほど多くの失敗を経験し発見があったからこそその成功があるのです。

その一方、今の日本の社会はどことなく失敗を許さない風潮がある様に思います。例えば、政治や芸能ニュースは誰かの失敗を徹底的に追及しすぎる傾向があります。この様な失敗を許さない空気はどこから生まれているのでしょうか。「失敗が出来ない社会」を言い換えれば、「周りの寛容さの欠如」とも言えます。失敗した時に叱られ、必要以上に狼狽してしまうからでしょうか。私は小学校の時に、アメンボ見たさに田んぼに落ちた事があります。蛇を見たいが余りに噛まれた事もあります。普通ならば「危ないからやめなさい」と注意がありますが、先生は「好奇心旺盛で良い事だ」と言って褒めて下さいました。その時の先生方の掛け声が「あなたは危機管理能力が乏しい」と否定的な注意だったとしたら、私の生き物好きな心は育まれていなかったと思います。例えば寝返りをし始めた赤ちゃんは、失敗という認識が

ないので何度でもトライしやがて寝返りを成功させます。寝返りを「もう無理だろう」と諦めた赤ちゃんは聞いた声がありません。チャレンジ精神旺盛で生まれてきたにも関わらず周りの言葉で失敗後の捉え方がマイナスイメージとなり、失敗を怖れ始めるのです。まずは社会全体が失敗している人を見かけたら「グッドジョブ」と前向きな掛け声に変える事や、一人一人が、「失敗する事が恥ずかしい」という感覚から、「失敗する権利がある」に置き換えて根本的イメージを変えていくことが重要だと思います。

私は「失敗したって大丈夫活動」を広げていきたいと考え家族に宣言することにしました。母は翌日「今夜はお好み焼きで、あなたがそのリーダーね」と言い、私は初めて一人でお好み焼きを焼くことになりました。一人でチャレンジするお好み焼き作りは楽しい作業で胸が躍りました。しかし予想とは異なり1回目のお好み焼きは、粉と水とのバランスが悪かったのと火加減が悪かったりした事で私は早速大失敗をしました。しかし、母は「グッドジョブ」と笑顔で言ってくれました。要するに、1回目は成功することが目的ではなく何を調整すれば良いのかをしっかりと熟慮する為であり、成功する為の情報を一つ得たという事なのです。また、しっかりと考えた上で失敗することが成功への繋がりになると思います。では、私の人生の目標に合わせた1枚目のお好み焼きを焼くのは、やはり今です。またエジソンはこの様な言葉を残しています。「私達の最大の弱点は諦めることにある。成功するのに最も確実な方法は常にもう1回だけ試して見ることだ」と。私はこの言葉を知ったとき、成功の意味を腑に落とす事が出来たと思いました。

これからの私たちの人生の中で、失敗したら少しは凹む事もあると思いますが、すぐに立ち上がり、「あと1回」と勇気を出してチャレンジします。チャレンジの数だけ私の人生が豊かになるように、後々生かされる可能性を失わない為に「失敗したっていいじゃない」をここに宣言し活動を広げていきたいと思っています。皆さんも自分の人生をさらに明るくしませんか？